

# 学校保健委員会

令和2年12月3日(木)

## 参加者

学校医 道下秀信先生 学校歯科医 中浜 毅先生、学校薬剤師 日吉芳弥先生  
学校職員 端野(高)、寺田(中)、小町(小・保健主事)、池田(養教)

## I 報告

### ①感染症状況(11月30日現在)

- ・インフルエンザ 0人
- ・かぜ症状による出席停止

月	6	7	8	9	10	11
人数	3	16	0	2	9	20

\*延べ人数

- ・予防接種状況 児童生徒 67.7%  
職員 80.0%(接種予定含む)

### ②歯科保健指導

- 7月 8日 高等部:歯みがきと歯科検診について
- 11月 9日 中学部:歯みがきの大切さ
- 11月13日 小学部:歯みがきの大切さ
- 「歯みがきカレンダー(毎月10日間)」実施
- 12月中 高等部対象に「歯みがきの大切さ」実施予定

## 2 協議

### ①感染症対策

- 現在、学校で行っていることを踏まえたうえで助言をいただく
- ・手洗い、うがい、消毒をしっかりと行う。
  - ・学校に入れないことが一番、家庭の協力をお願いします。

### ②歯科保健

- ・受診率がなかなか上がらない  
→家庭に情報提供を行い、家族みんなで口腔意識を高めていくのが大事

### ③環境衛生

- ・換気は、対面で窓を開けることで空気が流れる。
- ・常時開けておいてもよいが、体が冷えると免疫力がさがるので、休み時間にしっかり行うこともよい。
- ・エアコン利用する場合は、こまめに消さずつけっぱなしでよい。

### 3 事前質問

分校の児童生徒が新型コロナウイルスに感染した場合、年齢層で重症度は予測できるか。

- ・できないと思われる
- ・1名でも感染者が出ると、ほとんどが濃厚接触者になってしまうので対策をしっかり行ってほしい

インフルエンザと新型コロナウイルス、症状で一番違う点は何か。

- ・同じような症状なので区別はつきにくい
- ・味覚や嗅覚の障害ということも言われているが、PCR検査を受けなければ確定できない

修学旅行など、県外や校区外での活動の可否について、来年度に向けて医療の観点から提言をいただきたい。

校外に出かけてもよい基準はあるか。

- ・状況が毎日変化しているので、来年度のことははっきり言うことはできない
- ・いろいろな場合を想定して計画を立てていくしかない

コロナ禍でもあり、家でiPadやテレビを見て過ごす時間が増えていると感じる。学校卒業後も余暇として画面視聴を理想的な形で生活に取り入れていけばよいが、その際に良い習慣づけとなるような手立てはあるか。

- ・家庭との協力が不可欠、情報提供を行っていくこと
- ・家庭内の一人一人の心の準備が大切

コロナに感染しないために、「飲食中は話をしない」「1m以上離れて」「家に帰ったらシャワーを浴びる」等と報道されている。

今できる予防対策、そしてワクチン使用がどこまで現実的になってきているのか正しい情報を得たい。

- ・感染症対策の基本は、手洗い・うがい、換気、マスク、ソーシャルディスタンス
- ・現在のワクチンは遺伝子組み換えによるものなので早く作ることができた
- ・政府→県→市町と情報が降りてくるのでしっかり情報収集

インフルエンザ予防接種 大人は1回なのに子供は2回必要なのはどうか。

- ・子供は免疫がつきにくいいため2回接種している

## 洗口液の種類

**イオン系抗菌薬配合**：バイオフィルムの上に付着し持続的に抗菌効果を発揮  
バイオフィルムの中には浸透しにくい

商品名 ガムデンタルリンス モンダミン ネオステリングリーン

**非イオン系抗菌薬配合**：バイオフィルムに浸透しやすいが効果が持続しにくい

商品名 ポピドンヨード リステリン

口腔内の状態によって引き起こされる病気や、あるいは他の病気の治療をするにあたり、口腔内の病気で治療できないことがあると聞くと聞くと聞くと、どのような例があるか教えてほしい。

### 引き起こされる病気

誤嚥性肺炎、細菌性心内膜炎、糖尿病、骨粗しょう症、胃潰瘍  
掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）、早産・低出生体重児  
・手術にあたり、口腔ケアをしてからでないとうけられない場合もある。また口腔ケアをしておくと回復が早い。

### その他

- ・口呼吸について
- ・口腔ケアについて
- ・PCR検査について